

検証・評価シート

北区計画 -平成24年度の取り組み状況-

「人が集い 安心して暮らせる 魅力あふれる 緑といで湯のまち」

将来像

人と人とのつながりを大切にし、農村地域とニュータウンなど都市部との地域連携・地域交流を促し、人・もの・情報が行き交い、暮らす人・訪れる人など多くの人が集うまちづくりを進めるとともに、広い区域、地形、まちの成り立ちなど、北区の地域特性を考慮したうえで、交通環境の向上など、日常生活における利便性・安全性を高め、子育て世代や高齢者などあらゆる世代が将来にわたって安心して暮らせるまちづくりを進める。

また、北区に数多く残されている名所旧跡や伝統芸能などの歴史文化資源の保存・継承と活用を行い、魅力あふれるまちづくりを進めるとともに、豊かな自然に恵まれた緑のまちであり、環境マナー先進地である北区の美しい環境を、次世代のため守り育てていくほか、全国的に有名な湯のまち「有馬温泉」を、観光をはじめ健康づくりなど様々な分野に活用し、北区の活性化を図っていく。

I. 地域力の向上

評価: 顕著な成果

【目標】

- (1) 地域内での地域力の向上
- (2) 地域間の連携による地域力の向上
- (3) 地域力の向上を支える体制づくり

【主な取り組み状況】

(1) 地域内での地域力の向上【前進】

事業数=4 (顕著な成果=2、前進=1、現状維持=1)

○自治会づくりの支援【現状維持】

- ・自治会の立ち上げを呼びかけるチラシの作成や広報掲示板の設置を支援する「自治会立ち上げ支援制度」を創設した。
- ・谷上南町において、近隣の自治会と協働で、地域活動の参加と自治会の結成を呼びかけるチラシを各戸に配布した。
- ・自治会が無い地域に立ち上げを呼びかけるため、結成状況の実態把握から取り組む必要がある。

○新任自治会長研修の開催【前進】

- ・地域活動を担うリーダーの育成を図るため、新任自治会長を対象に行政機関の相談窓口や支援制度の紹介をする講習と、「まちづくり」に関する講演を行った。
- ・参加者の増につなげるため、開催回数を増やすとともに、自治会役員に外部講師を依頼し、具体的な事例紹介をしてもらうなど、内容の充実を図る必要がある。

○災害直後の要援護者支援による地域力の再構築【顕著な成果】

- ・災害直後に要援護者を地域で支援する仕組みの構築のため、各種団体への周知や防災ワークショップの開催、総合防災訓練でのチームディフェンスの仕組みの実践などを行い、25年度からの取組みに向けてモデル地区との協議を開始した。

○地域主体の特徴的な活動【顕著な成果】

助成制度等を活用し、地域団体等が主体となって地域活動の活性化に取り組んだ。

- ・花山地区での梅林づくり(花山梅林会)
- ・里山散策イベント・クリーン作戦(まりの会)
- ・あいな里山もち米づくり(田五作の会)
- ・神戸北町エリアでの認知症徘徊訓練(大原桂木OKサポート)
- ・世代間交流の促進(ウイズユきたごよう)
- ・藍那の里の魅力発信 食育イベント活動(あいな茶屋)

(2) 地域間の連携による地域力の向上【顕著な成果】

事業数=5 (顕著な成果=5、前進=0、現状維持=0)

○北区連合自治協議会情報交換会の開催【顕著な成果】

- ・意見交換や先駆的な活動内容の紹介などを行う情報交換会を開催した。

○ふれあいのまちづくり協議会情報交換会の開催【顕著な成果】

- ・各協議会相互の情報・意見交換、先駆的な活動内容の紹介などを行う情報交換会を開催した。

○地域間交流活動(五町)への支援【顕著な成果】

- ・五町(道場、長尾、大沢、八多、鹿の子台)合同での広報誌「まちふれんず」の発行や、「五町演芸大会」「グラウンドゴルフ大会」の開催を支援した。

目標達成状況

○有野地区の交流支援【顕著な成果】

・有野地域において、新旧住民の交流のため、広報誌「ありの」の発行やウォークラリーの開催を支援した。

○地域主体の特徴的な活動【顕著な成果】

地域団体等が主体となって、地域間交流に取り組んだ。

- ・広域住民による大規模グリーン作戦（山田川を美しくする会）
- ・神戸北町エリアでの認知症徘徊訓練（大原・桂木OKサポート）
- ・野菜朝市「鮮菜フレンズ市場」による新旧住民交流活動（上上津自治会）
- ・休耕田を活用した地域の活性化と都市部との交流促進（淡河町自治協議会）

(3)地域力の向上を支える体制づくり【顕著な成果】

事業数＝17（顕著な成果＝9、前進＝5、現状維持＝3）

○地域提案型活動助成【顕著な成果】

・マンパワーを自己資金に換算する複雑な申請様式を廃止し、申請事務を簡素化するため、要綱の改正を行った。

・市民が自ら主体となって企画・提案・実施する地域活動を12件支援した。

○協働による地域課題解決支援事業

■路線バス運行維持と地域等による自主運行の検討支援【前進】

・市企画調整局、学識経験者が参画し、八多町・大沢町合同の勉強会を8回開催した。

・大沢町において自主運行を試験実施した。

・更に詳細なニーズ調査を行い、より利便性の高いバス路線への変更を事業者に働きかけるとともに、自主運行の実現可能性を検討する必要がある。

■農村地域における子育て支援【現状維持】

・淡河町での学童保育の時間延長と一時預りに関する要望について、学童保育は、地域の中で協議を進めることとなり、一時預かりは、ファミリーサポートセンター事業の活用を検討することとなった。

・具体的な協働の取組みにつなげていく必要がある。

■通学路の交通安全対策【顕著な成果】

・中里町内の南北道路におけるスピード抑制のため、自治会と協働で、警察とも連携し、実際の交通状況の把握、町内小中学生へのチラシ・ポスター図案の募集、作成したチラシの全戸配布を行った。

■鈴蘭台駅前活性化事業【現状維持】

・鈴蘭台駅前整備が進められる中、神戸親和女子大学と区役所が協働で駅前商店等とも連携しながら駅前活性化策について検討し、駅前マップづくりに取り組んだ。

・駅前マップの充実を図るとともに、それ以外の活性化策の検討を進める必要がある。

○大沢町パートナーシップ協定の推進【顕著な成果】

平成24年4月に大沢町地域事務局を立上げ、「みんなで取り組む行動計画」に基づき、プロジェクトチームを結成し、優先順位の高い取り組みから、順次実施した。

■おいしい大沢産農産物プロジェクト

・観光農業を中心としたパンフレット「おいしいよ大沢町」、パネルを作成した。

・新たなブランド育成として、山椒、ぶどう、柿、梨、とうもろこしなど14品目の新規作付け・拡大を実施した。

・筍を生産すべく京都に視察に行き、町内の竹林の整備を実施した。

・6次産業への取り組みとして、「黒豆おこわパイ」の商品開発を進めた。

■空き家実態調査と利用促進プロジェクト

・JA資産管理センターと連携し、新たに1軒入居した。

・「大沢暮らしテキストブック」を作成した。

■都市との交流プロジェクト

・どろんこバレーボール大会、ふれあいコメづくりひろば、そばうち教室、有野台との交流などを実施した。

○より便利で利用しやすい区役所づくり

・フロア案内サインや障害者用ブロックの整備など、庁者案内表示等の改善を実施した。【顕著な成果】

・各種研修や若手職員を中心としたワーキング活動などにより、市民応対に必要な知識や技術の習得に努め、来庁者アンケートにおいて、アンケート項目の全ての項目の満足度が前年度より高い結果となった。【顕著な成果】

・新たな区役所サービスのあり方について、庁内勉強会を開催し、方針(案)を決定した。鈴蘭台駅前再開発事業の進捗に合わせ、窓口サービスのあり方について、具体的に検討を進める必要がある。【前進】

【総評】

災害後の要援護者支援の取組みについて準備をすすめたほか、地域間交流や活性化事業などに、地域主体で取り組んだ。また、地域との協働による地域課題解決支援事業を創設し、地域との協働の取組みを行った。

平成25年度は、北区が誕生40周年をむかえることから、関連行事等を通じて、区民に北区の良さを再認識してもらうとともに、引き続き、災害後の要援護の取組みや、協働による課題解決、より便利で利用しやすい区役所づくりなど行政サービスの充実などに取り組み、地域力の向上を図る。

【目標】

- (1) 自然や歴史とのふれあい
- (2) 「農」の活用
- (3) 観光資源の活用
- (4) 情報の発信

【主な取り組み状況】

(1) 自然や歴史とのふれあい【顕著な成果】

事業数＝5(顕著な成果＝4、前進＝1、現状維持＝0)

○農村歌舞伎上演会の開催【顕著な成果】

・下谷上農村歌舞伎舞臺で歌舞伎上演会を開催した。上演会では3団体が出演し、農村舞臺に関する講演や舞臺装置の実演なども実施した。

・地域主催の北僧尾農村歌舞伎上演会を支援した。

○北区歴史講演会【前進】

・大河ドラマ「平清盛」放映が佳境となる時期にあわせて、田辺眞人氏と旭堂南海氏を招いて、「平清盛の後」として講演と講談を行った。

・より区民が興味を持ちやすいテーマの設定や開催時期、さらに効果的な情報発信方法について検討が必要である。

○地域主体の特徴的な活動【顕著な成果】

地域団体が主体となって、北区の自然や歴史とふれあうイベントを開催した。

- ・ありのウォークラリー(有野地区自治連絡協議会)
- ・歴史講演会、史跡見学会(山田民俗文化保存会)
- ・北僧尾農村歌舞伎上演会(北僧尾自治会)
- ・「子ども歌舞伎体験と発表の集い」(茨木市)への出演(箱登羅たから歌舞伎)
- ・おおぞうふれあいエコハイキング(実行委員会)

○茅葺きを中心としたまち・こころづくり【顕著な成果】

<茅葺き屋根とふれあう月間2012の開催>

・北区ならではの魅力である茅葺きを体験してもらい、情報発信するため、クラシックコンサート(鈴蘭台)やお茶会(長尾町)など、茅葺き民家を活用したイベントを1ヶ月間集中的に開催した。

<茅葺きを活用した地域イベントの支援>

・淡河町や八多町の茅刈りイベント等へ職人派遣などの支援を行った。

(2) 「農」の活用【前進】

事業数＝12(顕著な成果＝5、前進＝7、現状維持＝0)

○農の情報発信【顕著な成果】

・広報紙の一面で、北区の農産品や観光農園・直売所などの特集を掲載した。

・北区長日記を通じて「大沢町とうもろこし狩り」「鮮菜フレンズ市場・上上津」「大沢農産物の朝市」の情報発信を行った。

○地産地消の推進【前進】

・有野台夏祭りでの焼きとうもろこし・野菜の販売や大沢町での芋掘り、有野台ふれあいフェスタでの昼市など、大沢町と有野台の交流を行った。

・大沢産のお米の紹介・直売など、次年度より開始する大沢町と大池の交流にかかる準備を実施した。

・月一回程度の定期的な交流・朝市の開催及び売上げの増大を図る必要がある。

○大沢町パートナーシップ協定の推進【顕著な成果】

■おいしい大沢産農産物プロジェクト

・観光農業を中心としたパンフレット「おいしいよ大沢町」とパネルを作成した。

・新たなブランド育成として、山椒、ぶどう、柿、梨、とうもろこしなど14品目の新規作付け・拡大を実施した。

・筍を生産すべく京都に視察に行き、町内の竹林の整備を実施した。

・6次産業への取り組みとして、「黒豆おこわパイ」の商品開発を進めた。

○大沢ブランド農産物の育成【前進】

・おおぞうそだちの生産・販売を開始した。

・イチゴ品種「神戸1号」の株の増殖・育苗を行った。

・作付けの拡大等につながる専門技術的な指導を進める必要がある。

○特定外来生物および有害鳥獣対策【前進】

- ・防除計画に基づく対策として、「猟友会への捕獲の委託」「猟具の購入、箱わなの貸出」「注意や啓発資材の配布」等を行った。
- ・捕獲が繁殖に迫りつつおらず、効率的かつ重点的な対策が必要である。

○地域主体の特徴的な活動【顕著な成果】

- ・藍那の里の魅力発信 食育イベント活動(あいな茶屋)
- ・小学校食農体験教室・補助教材の作成(JA神戸北女性会)
- ・あいな里山 親子de もち米づくり(田五作の会)
- ・休耕田を活用した地域の活性化と都市部との交流促進(淡河町自治協議会)

(3)観光資源の活用【顕著な成果】

事業数=5(顕著な成果=4、前進=1、現状維持=0)

○有馬太閤ひょうたんまつり支援事業【前進】

- ・第12回有馬太閤ひょうたんまつりの開催を支援した。北神地域小学校に対し、ひょうたん苗に加え、加工用ひょうたんを配布したことにより小学校の出品が増加した。
- ・地域住民や地元小学生のひょうたんまつりへの参加を促すため、ひょうたん栽培加工講習会を開催した。
- ・ひょうたん苗栽培及び加工講習会の委託先(淡河瓢箪同好会)が高齢化しており、活動継続が難しい状況にある。また、一般・学校ともにさらなる出品数拡大に向けた検討が必要である。

○有馬川サクラの再生事業【顕著な成果】

- ・太閤橋から乙倉橋のサクラについて樹勢診断を行い、病害枝剪定(15本)、腐朽部治療(7本)、土壌改良(7本)等の作業を実施した。

○北区「清盛」ゆかりの地巡り【顕著な成果】

- ・北区内に点在する清盛ゆかりの史跡等を広く発信し、多くの人に北区を訪れてもらい、区民に北区の良さを再認識してもらうために、神戸市北区・谷上駅周辺活性化協議会が開催するハイキングとタイアップしてビンゴラリーを開催した。

(4)情報の発信【前進】

事業数=7(顕著な成果=2、前進=5、現状維持=0)

○きたきたまつりの開催【顕著な成果】

- ・区民相互の親睦と交流を深めるため、「第39回きたきたまつり」を開催し、ステージ発表・出店・その他会場イベント等を実施した。

○北区の魅力発見キーワードラリー【前進】

- ・区内の農村地域を訪れる人を増やし生産物を購入してもらうため、区内の農産物直売所及び観光スポットを紹介するガイドブックを作成・配布した。
- ・平成24年「秋冬号」より、HPからのキーワードラリー応募のシステムを開始した。
- ・賞品応募者数が少ないことから広報や配布、応募方法等見直しを行う必要がある。

○広報サポーター制度【前進】

- ・3名の広報サポーターによる取材記事を毎月平均3件、ホームページに掲載した。
- ・過年度と同様の記事も多くなってきたことから、広報サポーター制度を廃止し、ホームページで一般投稿記事を募集する方式に変更する。

○ホームページの充実【顕著な成果】

- ・区民の関心が高い「区の計画・まちづくり」「防災」「健康・福祉・子育て」のタグをトップページに追加したほか、区長の日々の活動を通じて地域での活動などを紹介する「北区長日記」のコーナーを新設し、89件の記事を掲載した。

【総評】

農村歌舞伎上演会や農業体験イベント、農産品のブランド化に向けた取り組みや平清盛関連行事など、自然や歴史、農、観光資源など北区の魅力を活用した取り組みを進めた。また、ホームページの充実を行うなど情報の発信を進めた。

平成25年度は、引き続き自然や歴史とのふれあいなどに取り組むとともに、パートナーシップ協定最終年度をむかえる大沢町での取組みを推進するなど農の活用を図るほか、ホームページについて内容の充実に取り組むなど、北区の魅力の情報発信の強化を図っていく。

【目標】

- (1) 便利なまちの推進
- (2) 安全なまちの推進

【主な取り組み状況】

(1) 便利なまちの推進【前進】

事業数=5(顕著な成果=2、前進=3、現状維持=0)

○路線バス運行維持【前進】

・バス路線の維持に取り組んでいる大沢町や八多町において、運行継続に向けた連絡会議や地域によるバス利用促進キャンペーンなどを実施したほか、地域と事業者との協議の場を設けた。その結果、15系統は3.5便の減となったが、八多町～岡場駅の路線が2便新設となった。
 ・区役所・地域の協働による課題解決の取り組みを更に進める必要がある。

○淡河町ゾーンバス【顕著な成果】

・月平均634人の利用があり、町内の移動手段として定着し、継続的・安定的運行が図られた。

○空き家の利活用【前進】

・大沢町において利用可能かつ所有者・管理者に賃貸・売却意向のある空家への新住民の入居を実施した。
 ・マッチングを進め、更に多くの空き家活用を図っていく必要がある。

○地域主体の特徴的な活動【顕著な成果】

地域が主体となって、定住促進に向けた取り組みを実施した。
 ・大沢町において、町内に住む若い家族を増やすために「大沢出合いの場(花見編、花火編)」を開催した。
 ・淡河町において、昨年作成した淡河での生活をイメージできるガイドブック「淡河町田舎暮らしの便利帳」を改訂した。

(2) 安全なまちの推進【顕著な成果】

事業数=20(顕著な成果=15、前進=5、現状維持=0)

○鈴蘭台駅周辺のまちづくり【顕著な成果】

・再開発ビルや道路などの設計の概要や事業の施行期間などを定めた事業計画の決定を行った。
 ・地域住民説明会やニュースの全戸配布、区役所窓口配布など、地域への周知を図った。

○大池駅周辺のまちづくり【顕著な成果】

・大池駅前地区において、駅前街路や幹線道路等の整備を促進した。

○西鈴蘭台駅前広場再整備【前進】

・H25年1月からバリアフリー化や歩道・植栽帯の整備、身体に障害のある方のための乗降スペースの整備等を行う工事に着手した。

○北区民暴力団追放大会の開催【顕著な成果】

・北区民センターすずらんホールで、北区民暴力団追放大会を開催するとともに、鈴蘭台駅まで街頭啓発パレードを実施した。

○北区総合防災訓練の実施【顕著な成果】

・藤原台地区において、災害直後のたすけあいセンター設置、募集したチームサポーターによる要援護者の救出避難訓練などチームディフェンスの仕組みを取り入れた訓練を行った。

【総評】

北神地域において、路線バスの維持や自主運行バスの実現について検討を進めるとともに、農村地域での利用可能な空き家への新住民の入居を実施した。また、鈴蘭台駅前の整備や、北区総合防災訓練の実施など、安全・安心なまちづくりを推進した。

平成25年度は、路線バスの維持や自主運行バスの実現に向けて、地域との協働による課題解決の取り組みを更に進めていく。

【目標】

- (1) 子どもを育てる
- (2) 青少年を育てる

【主な取り組み状況】

(1) 子どもを育てる【顕著な成果】

事業数=15(顕著な成果=8、前進=6、現状維持=1)

○世代間交流イベントの開催(本区:きてきてカーニバル、北神:わくわくカーニバル)【前進】

- ・地域で子育てを支援する様々な関係者の参画のもと、世代間交流イベントを開催した。
- ・カーニバル参加者へ子育てサークルの情報等を継続的に発信していく必要がある。

○神戸っ子応援団【前進】

- ・学校が必要とする活動に地域の方々にボランティアとして参加してもらい神戸っ子応援団について、立上げを支援するとともに、応援団を活用して見守り活動や行事支援などの取り組みを行った。
- ・教職員の応援団に対する理解促進と、中学校のニーズの吸い上げが必要である。

○北神子育てグループの交流事業【顕著な成果】

- ・子育て中の母親や子育てサークルの代表者を対象に、すぐに実践できる内容の「次世代リーダー養成講座」を開催した。また、講座内容を啓発できる冊子をまとめ、関係機関に配布した。

○プレパパママ教室【顕著な成果】

- ・これから親になる夫婦を対象に、子育て不安の軽減を図るため、妊娠中や産後の生活を疑似体験するとともに情報交換や個別相談を行うプレパパママ教室を開催した。

○中高生と乳幼児の触れ合い体験【顕著な成果】

- ・ユースステーション北神において、小学生が乳幼児と玩具と一緒に遊び交流する触れ合い体験を開催した。あわせて、妊娠シミュレーション等により命の不思議を学び、保護者から育児の話を聞いて赤ちゃんとの触れ合い方を学ぶ講座を開催した。

(2) 青少年を育てる【顕著な成果】

事業数=3(顕著な成果=2、前進=1、現状維持=0)

○青少年育成協議会支部長会の開催【前進】

- ・支部長会を3回開催し、イエローフラッグの取り組みの推進、各地域でのメディア学習の実施、きたきたまつりでの青少協のPR、青少年フェスタの開催などを行った。
- ・イエローフラッグの取り組み地区の拡大など具体的な成果につなげていく必要がある。

○北区青少年フェスティバル等の開催【顕著な成果】

- ・中高生を中心とした実行委員会により、青少年が自ら企画・運営する青少年フェスタを開催した。

【総評】

本区・北神地域での世代間交流イベントの開催や「神戸っ子応援団」の立上げ支援を行うなど、子育て支援の取り組みを充実させた。また、青少年フェスタでは、青少年の自主的な活動を通じて、年代や学校を超えた仲間づくりや、地域との交流を図ることができた。

平成25年度は、神戸っ子応援団と連携して中学生の地域参加支援を行うほか、引き続き、世代間交流による子育て支援や子育て環境の整備、青少年育成活動の充実などに取り組んでいく。

【目標】

- (1) 健康づくりの推進
- (2) 高齢・障がい福祉の充実

【主な取り組み状況】

(1) 健康づくりの推進【顕著な成果】

事業数＝4(顕著な成果＝3、前進＝1、現状維持＝0)

○こうべ健康ウォークの開催【顕著な成果】

- ・歩き方教室や健康チェック等を取り入れ、地域の歴史資源を巡るウォーキングを開催した。
- ・神鉄ハイキングとの共催、年2回の開催により参加者が増加した。
- ・第2回では、地元(あいな茶屋)の協力により、炊出しや物販を通して地元の活動PRを図った。

○各種スポーツ大会の開催【顕著な成果】

- ・ロードレース大会や北区ふれあい綱引き大会、各種区長杯大会等のスポーツ大会を開催した。

○健康づくりリーダー養成講座【前進】

- ・地域の仲間と自主的な健康づくり活動を展開する健康づくりリーダーについて、フォロー研修や健康運動指導士派遣による活動支援を行った。
- ・新規自主活動グループの立上げを支援した。
- ・活動していない健康づくりリーダーが活動を開始する機会づくりや、既存の自主グループが継続して活動が行えるよう支援が必要である。

(2) 高齢・障がい福祉の充実【顕著な成果】

事業数＝10(顕著な成果＝7、前進＝3、現状維持＝0)

○障害者地域自立支援事業

障がいのある人が地域で安心して生活できる社会環境を整えるため、北区自立支援協議会等と連携を図りながら、講演会や芸術作品展示会を開催した

- ・ふれあい講演会の開催【顕著な成果】
- ・ふれあいフェスタの開催【顕著な成果】

○絆サポーターによる高齢者への目配り事業【前進】

- ・地域住民が日々の暮らしの中で高齢者へ目配りを行う絆サポーター活動について、既に導入している有野台での登録者数増と対象地域の拡充に取り組んだ。
- ・対象地域の拡大を進めるとともに、絆サポーターのモチベーションの向上や認知症等高齢者問題に関する知識向上のための研修会や交流会を実施する必要がある。

○機能回復訓練を契機とした高齢者居場所づくり支援事業【前進】

- ・北神地域において、徒歩圏内に地域福祉センターがない地域の集会所などで、健康づくりリーダーが自主的に行う健康体操について、自主グループの立ち上げ支援や体操リーフレットの作成を実施した。
- ・地域で自主的に取り組む意欲向上を図り、活動地域の拡大を図る必要がある。

【総評】

ロードレース大会や綱引き大会をはじめ各種スポーツ大会を開催した。また、健康づくりリーダーが地域の集会所などで高齢者の健康体操を支援する「機能回復訓練を契機とした高齢者居場所づくり支援事業」や「絆サポーターによる高齢者への目配り事業」について拡充にむけた取り組みを行うなど、地域住民主体の地域福祉活動を推進した。

平成25年度は、引き続き各種スポーツ大会や地域福祉活動への支援を行うとともに、絆サポーターの更なる拡充に取り組むほか、地域団体が自主的に地域福祉活動を行えるよう健康づくりリーダーの活動支援などの取り組みをすすめる。

【目標】

- (1) 美しいまちづくり
- (2) 豊かな自然を守り育てる
- (3) マナー・モラルの向上

【主な取り組み状況】

(1) 美しいまちづくり【顕著な成果】

事業数=5(顕著な成果=5、前進=0、現状維持=0)

○クリーン作戦の更なる推進

・クリーンキャンペーンの実施【顕著な成果】

ぼい捨て防止重点区域に指定されている鈴蘭台駅周辺、有馬、西鈴蘭台駅周辺、岡場・田尾寺駅周辺の各地域でのクリーンキャンペーンなどを支援した。

・美緑化重点スポット美化活動助成【顕著な成果】

住民団体(81団体)が実施する美化活動に対する助成を行った。

○クリサンセマムストリート事業【顕著な成果】

・鈴蘭台駅前から北区役所までを「クリサンセマムストリート」と名付け、北区連合婦人会が主体となり、年間を通じて四季折々の花の植付や装飾を実施した。

(2) 豊かな自然を守り育てる【前進】

事業数=11(顕著な成果=4、前進=5、現状維持=2)

○環境フォーラムの開催【現状維持】

・NPO法人ごみじゃぱんの減装ショッピングの取り組みが3R推進功労者表彰・内閣総理大臣賞を受賞し、ごみじゃぱん・神戸市・神戸大学の共催で、減装シンポジウムを開催した。

・横浜市、名古屋市等他都市でも取り組みが始まっており、神戸から減装ショッピングを全国に推進した。

・北事業所と区役所の連携では実施できなかったが、NPO主体で活動を継続できるようになったため、24年度をもって終了する。

○「美しいまちを守り、ごみの減量、資源化を推し進める協定」の締結【前進】

・新たに八多町自治協議会のと協定を締結した。

・協定締結団体の増加と活動の推進のため、更に地域に呼びかけを行っていく必要がある。

○ふれあいゴミスクール【顕著な成果】

・児童や保護者を対象にごみの減量・資源化、排出ルールなどを説明するふれあいゴミスクールを全小学校と希望する幼稚園(6箇所)で実施した。

○リサイクル工房ほくしんの開設【前進】

・ごみの3Rについて市民に関心をもってもらうための、体験型啓発施設である「リサイクル工房」を北神地域(岡場駅近く)に開設した。

・今後、多くの市民に活用してもらうための企画・PRが必要である。

○山田川クリーン作戦の支援【顕著な成果】

・山田川の河川流域(大池から衝原湖約13km)と周辺の住宅地域における、一斉クリーン作戦を実施した。

・美化活動への更なる意識向上を図るために、先進地区等への視察を実施した。

(3) マナー・モラルの向上【顕著な成果】

事業数=3(顕著な成果=2、前進=1、現状維持=0)

○環境ポスター展【顕著な成果】

・青少年の作成した環境ポスターを展示し、環境に対する意識の啓発を行う環境ポスター展を実施した。(キャンペーン列車、ポスター展:北区民センター・市民ギャラリー・イオンモール神戸北)

○ペットのしつけやマナーアップ教室の開催【前進】

・飼い犬のしつけ方教室を10回開催し、71頭の犬とその飼い主が参加した。

・犬や猫などの飼い主に対するマナー啓発看板を延べ約200人に配布した。

【総評】

各種クリーン作戦など、地域団体が主体となりまちの美化・啓発に取り組んだ。また、「美しいまちを守り、ごみの減量、資源化を推し進める協定」の締結団体が増加したほか、新しく北神地域に「リサイクル工房」を開設するなど、区民・事業者・行政が協働し、北区全体でごみの減量・資源化にむけた取り組みを行った。

平成25年度は、引き続きクリーン作戦のさらなる推進やリサイクル工房の活用により、ごみの減量・資源化などに取り組むとともに、環境マナーやモラル向上の啓発などを行っていく。

指標項目	策定値	23年度評価(参考)	24年度評価	ともに目指そう値
		数値	数値	
新たに「地域提案型活動助成」で採択された活動のうち、継続している活動数を平成27年度までに15団体増やす。	45件	新たに10件	新たに15件	新たに15件
自治会の新規結成数もしくはは連合自治協議会の加入数を平成27年度までに5団体増やす。	(単位自治会数) 377団体 (連合自治協議会加入数) 236団体	新たに2団体	新たに0団体	新たに5団体
茅葺き民家を活用したイベントの開催数を平成27年には10回/年開催する。	6回/年	9回/年	11回/年	10回/年
区内で受講した市民救命士資格取得者数を平成27年度までに12,000人増やす。	18,053人	新たに3,848人	新たに3,446人 (H21比+9,600人)	新たに12,000人
北区民暴力団追放大会を毎年継続して開催する。	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年 継続開催
世代間交流事業を平成27年度には30回/年開催する。	18回/年	28回/年	42回/年	30回/年
健康づくりリーダーの養成者数を平成27年度までに100人増やす。	400人 (平成22年度)	436人	436人	500人
「美しいまちを守り、ごみの減量、資源化を推し進める協定」を平成27年度には30団体と締結する。	17団体 (平成22年9月)	19団体	20団体	30団体
地域資源集団回収量(年間1世帯あたり)を平成27年度には165kgを増やす。	135kg	133kg (平成22年度)	128.8kg (平成23年度)	165kg

まちづくり指標の状況